

古代相模国の国府と国分寺

相模川沿いに点在する遺構の数々

写真協力：海老名市／平塚市／小田原市／茅ヶ崎市／大磯町／二宮町



史跡相模国分寺跡は海老名駅の東側700mほどのところにあり、歴史公園として整備・公開されている。一部、伽藍の基壇や平面形が復元され、当時の様子が体感できる。



海老名市温故館では国分寺の模型や郷土の歴史資料も【住所】海老名市国分南1-6-36【電話】046-233-4028【開館】9:00-17:15、年末年始休館、無料。



相模国分尼寺跡は国分寺跡の北約500mのところ、小田急線沿いにある。住宅地の中にあるが、現在は往時を偲ばせるよう保存にも努めている。

海老名に伝わる 国分寺跡と 国分尼寺跡

法隆寺と同じ伽藍様式 七重塔を有した国分寺

天平13(741)年、仏教に深く
帰依した聖武天皇は全国に国分寺お

よび国分尼寺の建立を命じる。

関東では、武蔵(東京都、安房(千葉県)、上総(千葉県)、下総(千葉県)、常陸(茨城県)、下野(栃木県)、上野(群馬県)、相模(神奈川県)



海老名駅東口には、平成4(1992)年に市のシンボルとして七重塔が建てられた。実際の1/3のサイズだが大きく感じる。



現在の国分寺参道入口にある「海老名の大ケヤキ」。樹齢は推定約570年で、かつてこの辺りが入り江で漁師が船の係留用に使っていたという伝承も。



法隆寺と同じ伽藍配置の相模国分寺。七重塔は高さ60mを超えたという。法隆寺の五重塔が30mほどと考えると、相模国には相当な技術力を持った集団がいたと考えられる(CG成瀬京司)



SPOT



立ち寄り所



秋葉山古墳群

海老名市北東に連なる秋葉山古墳群では前方後円墳や前方後方墳、方墳などが計6基確認されている。約1700年前、弥生時代から古墳時代につくられたとされ、当時の南関東の様子を知る貴重な遺跡として平成17(2005)年に国史跡に指定された。緑豊かな一帯は自然と歴史を同時に楽しめる良好な散歩道。



瓢箪塚古墳

瓢箪塚古墳は秋葉山古墳群よりも後の時代につくられたとみられる、全長約70mの前方後円墳。古墳の頂部に登れば周囲が見渡せ、眺めのよさを満喫できる。市街地の先に大山を中心とする山並みも望める。海老名駅から徒歩でも行ける距離で、国分寺跡とともに立ち寄ることも可能。



千代寺院跡(千代庵寺)は、奈良・平安時代の寺院の跡。法隆寺式の伽藍配置を持ち、地方行政の中心を担う重要な施設であったとされる。



相模でも最古級の有鹿神社は相模川に臨む位置に鎮座する海老名の総鎮守。「神奈川のへそ 子育て厄除け大社」や縄文時代からのご神体「有鹿の泉」も。

の各国に置かれ、国の安寧と人々の幸福が願われた。

相模国分寺は西に大山・丹沢山系を望む相模川沿いの台地、いまの海老名市国分南に建てられた。

3万平方メートルに及ぶ広大な敷地に、金堂と高さ60メートルを超える七重塔が東西に配され、周囲を南の中間や講堂、鐘楼が囲む法隆寺式の伽藍配置であった。奈良時代の建立ながら飛鳥時代の様式というのは珍しく、全国でも数例しかない。

国分尼寺跡は国分寺跡の北側、約500メートルのところであり、こちらは中間、金堂、講堂が南北に並び配置だった。いまは金堂の礎石と位置を示す案内板や石碑が立っている。国分寺のあった場所は、相模国分寺跡の歴史公園として整備、公開さ

れている。高さ1メートルほどの塔の基壇が往時の壮大きさを偲ばせる。隣接する市立の郷土資料館「海老名市温故館」には、伽藍の復元模型が展示されている。なお、現在の国分寺は、国分寺跡から南へすぐのところ

らに建っている。ところで、国分寺のある場所に国府が置かれるのが一般的だが、海老名では確認されておらず、平塚にあったことがわかっている。また、小田原の国府津近くにも法隆寺と同じ伽藍配置の寺院があった。大磯にも国府の地名が残る。

なお、海老名市には、複数の前方後円墳が連なる国史跡の秋葉山古墳群や中世の武士居跡の浜田歴史公園、由緒ある有鹿神社などもあり、時代をまたいだ歴史散歩が楽しめる。



寒川神社は相模国一之宮で寒川比古命と寒川比女命の二柱を祀る。関八州の裏鬼門に位置し八方除の守護神として信仰されている最近では八方除にちなみ八角形をした八福餅が人気（写真提供：寒川神社）



川勾神社は二宮大明神とも称し、大和朝廷時代に垂仁天皇の勅命により創建されたという。天皇や鎌倉源氏一門から厚く崇敬された（写真提供：川勾神社）

相模の神様が集まる大磯の祭り



前鳥神社（平塚市）は相模国四之宮。修学・学問の神である菟道稚郎子命を祀っていることから多くの学生や受験生が願掛けに訪れる。



相模国総社六所神社（大磯町）は国府の一連の神事はこの神領地で行われる。後に源頼朝、北条氏、徳川家康と有力武士の篤い信仰を集めた。楳田姫命を祀る。



毎年5月5日に大磯で開かれる国府祭。神捕山で行われる座問答では、寒川神社と川勾神社が競い合うように虎の皮を繰り出してゆく。



神奈川のいちご

相模エリアでは「神奈川のいちご」が「かながわの名産100選」として県から選定されている。いちごは海老名、厚木、秦野、横須賀、平塚、小田原などで栽培され、12～5月に出荷される。特に、海老名はイチゴの共販出荷量が県内一ところで、地元産イチゴをふんだんに使った「いちごわいん」や「いちご餅」もつくっている。



その他おすすめスポット&情報

相州達磨

明治時代に八王子から伝わった多摩だるまが平塚で独自の発展を遂げたのが相州達磨。顔が白く金箔や細かい描写を施すのが特徴で、全国的にも珍しい毛が付いた達磨も。「かながわの名産100選」の一つ。



茅ヶ崎市文化資料館

湘南の海に近い閑静な住宅街に建つ資料館。茅ヶ崎の考古や民俗、自然を紹介する。新資料館をつくる計画も【住所】茅ヶ崎市中海岸2-2-18【電話】0467-85-1733【開館】9:00-16:00、月曜・年末年始休館、無料



四之宮の渡し

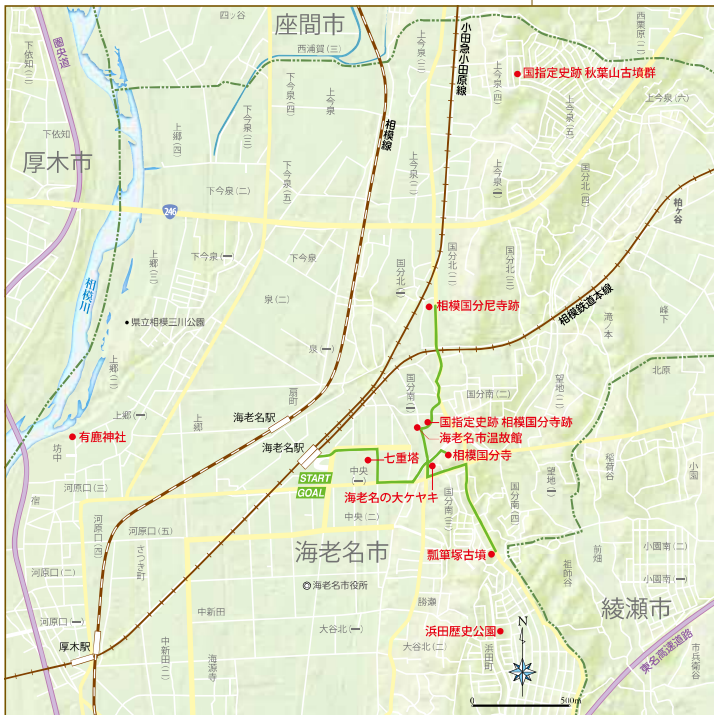
江戸時代、幕府が相模川への架橋を禁じたため四之宮（平塚市）の農民は耕地を行き来するため渡し船を利用した。家康も中原御殿との往復に使い、伊勢参りなどの東海道の旅人も迂回路として使ったという。相模川河畔に説明板が立っている。



7 古代相模国の国府と国分寺 おすすめコース

～徒歩～

小田急・海老名駅～七重塔
～瓢箪塚古墳～海老名の大ケヤキ～相模国分寺～海老名市温故館～相模国分寺跡～相模国分尼寺跡～小田急・海老名駅



大磯の「国府祭」など 神奈川の無形民俗文化財

神奈川県には、国指定が6件、国選択が2件、県指定が30件、県選択が3件の無形民俗文化財がある。
山北町の「山北のお釜入り」や真鶴町の「貴船神社の船祭り」など、山と海に恵まれた神奈川ならではのパリエーションを誇り、人形浄瑠璃の「相模人形芝居（前鳥座、足柄座）」や「横須賀の虎踊」など人形を使っても。
県のホームページにはすべての無形民俗文化財を紹介するマップが掲載されているので、是非チェックしてもらいたい。虫跡旧跡巡りに祭事を加えれば、歴史散歩もさらに格別の趣となるだろう。



江戸中期から続く愛川町の「三増の獅子舞」（県の無形民俗文化財）。7月の八坂神社祭りで演舞される（写真協力：愛川町）

散歴歩

神社と神社が覇を競う 歴史ドラマの「座問答」

奈良・平安時代、都から各国々に派遣された国司の最初の仕事は、その国の主な神々を参って平和と安全を祈願することだった。最初に訪れるのがもともとも神格の高い一之宮で、以下、二之宮、三之宮と巡っていく。相模国では一之宮の寒川神社（寒川町）、二之宮の川勾神社（二宮町）、三之宮の比々多神社（伊勢原市）、四之宮の前鳥神社（平塚市）、五之宮の平塚八幡宮（平塚市）と相模国総社の六所神社（大磯町）が相模国六社とされる。毎年1回、5月5日にその六社が大磯町に集うのが相模国府祭だ。故事にならい、天下泰平と五穀豊穡を神々に祈るが、特徴的なのが「座問答」である。
かつて一之宮の座を巡って相武一之宮の寒川神社と磯長一之宮の川勾神社が争っていた。それを見かねた比々多神社が仲裁に入るという内容で、虎の皮を競って繰り出す応酬を「いづれ明年まで」と曖昧な言葉で決着する。厳かな神事ながら不思議と人間くさいところが興味深い。